

Node-REDのノード開発ハンズオン

2019/06/14 日立製作所 中央研究所

横井 一仁

ハンズオン用の環境準備



ハンズオン開始前に以下のソフトウェアをインストールしておいてください。

- Node.js v10.x LTS https://nodejs.org/ja/download
- Node generator v0.0.4
 コマンドプロンプト上で「npm install -g node-red-nodegen」を実行
- IBM Cloudのライトアカウント登録 http://www.ibm.biz/ibmcloudfree

下記リポジトリにあるハンズオン説明スライドvol2も開いておいてください。 https://github.com/kazuhitoyokoi/nodegen-handson



(1) 下記URLにアクセスしNode-REDのソースコードをデプロイ

https://cloud.ibm.com/catalog/starters/node-red-starter



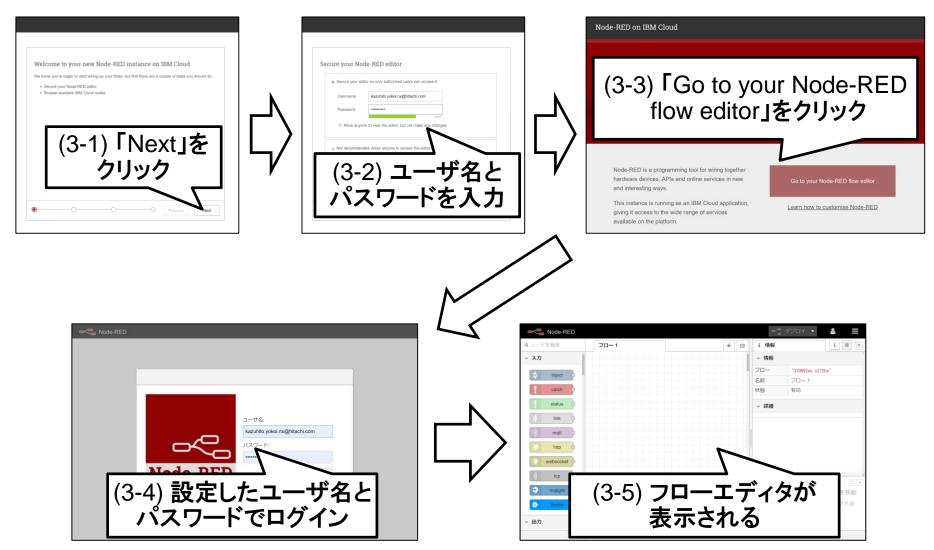


(2) デプロイが完了するまで4分程待った後、アプリのURLへアクセス





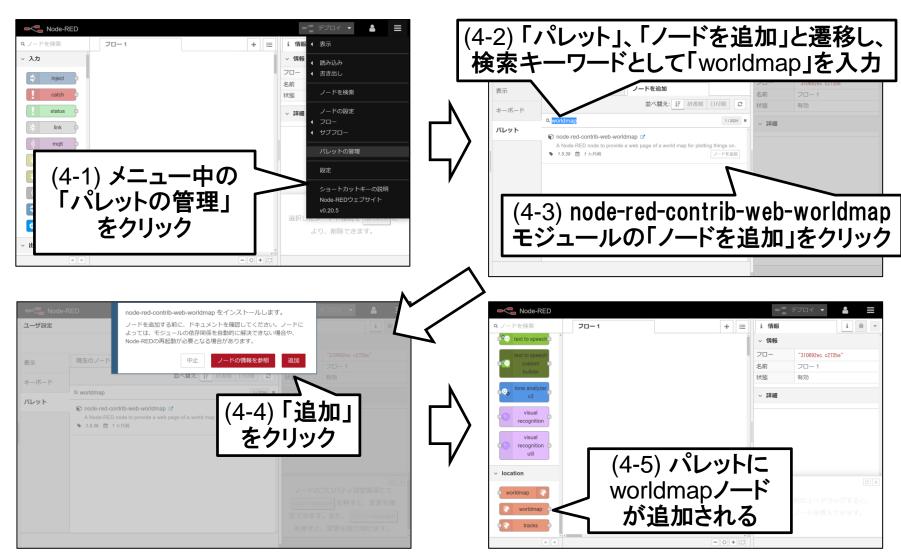
(3) ウィザードに従い、Node-REDの初期セットアップを実施



worldmapノードのインストール

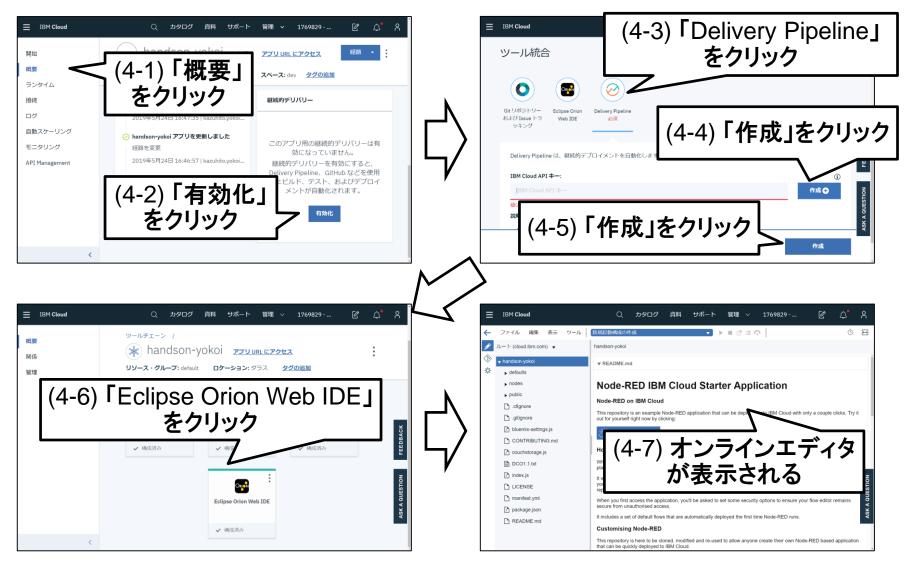


(4) 地図表示を行うworldmapノードをインストール





(4) IBM Cloudの管理画面に戻り、Node-REDのカスタマイズ環境を用意





コンテンツ

- Node generatorの説明
- ・ ハンズオン: Open APIドキュメントからオリジナルノードを作成

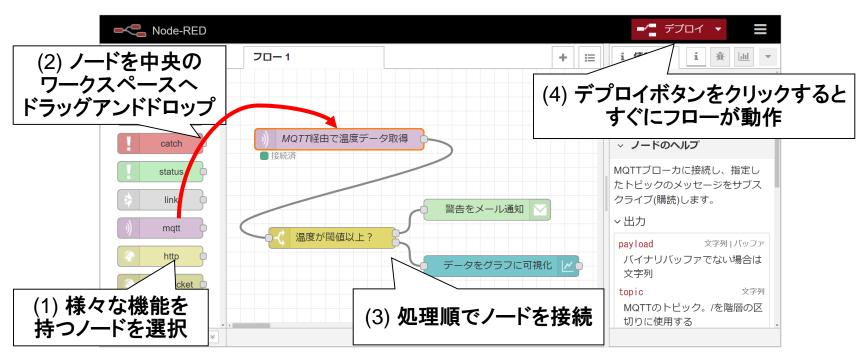


Node generatorの説明



loTアプリケーション向けのビジュアルプログラミングツール

- 迅速な開発を可能とするフローベースドプログラミング環境
- 新機能を追加できる様々なノード(部品)が存在
- Linux Foundation(OpenJS Foundation)のオープンソースソフトウェア

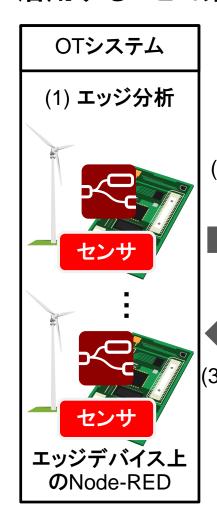


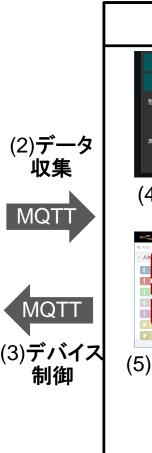
Node-REDフローエディタ

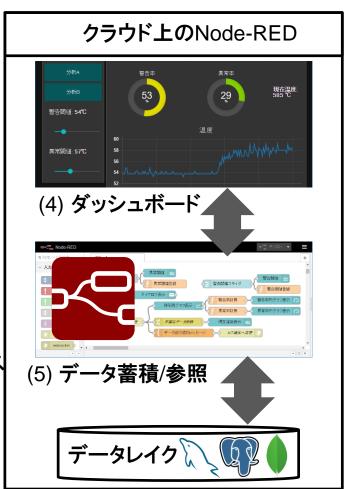
Node-REDで実現できること

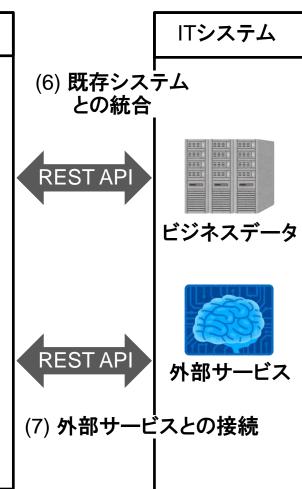


様々な外部システムやデバイス、ライブラリとつなぐノードを 活用することで素早くアプリケーションを開発できる。





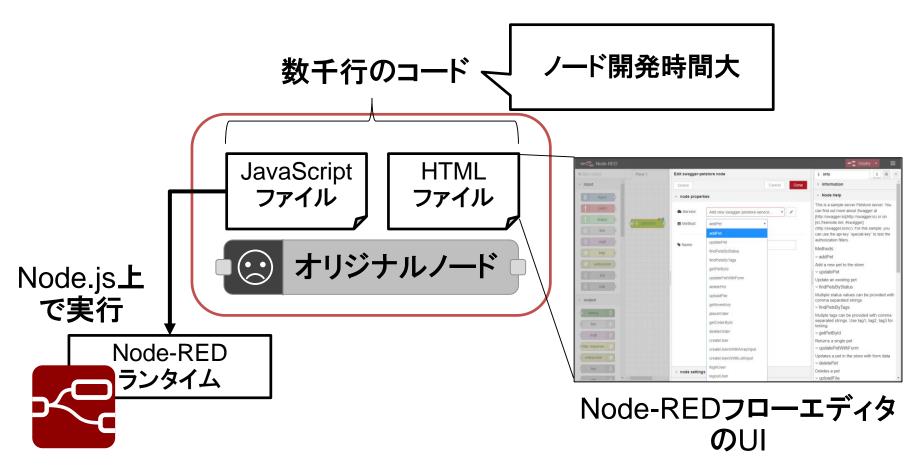




Node-RED案件の課題



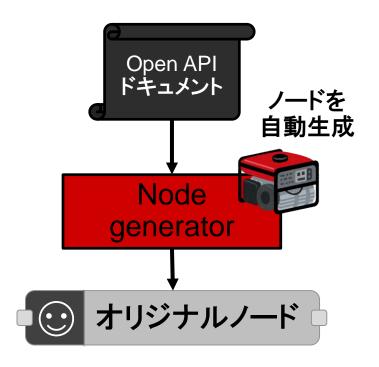
- 自社/他社サービスとの接続のため、オリジナルノードの開発が必要となることがある
- ・ 1個のノードは数千行のコード量であるため、ノード開発時間大



Node generatorによる解決



- Node generatorは、Open APIドキュメントや functionノードのソースコードから、ノードを自動生成できるツール
- Linux Foundation (OpenJS Foundation) のオープンソースソフトウェア



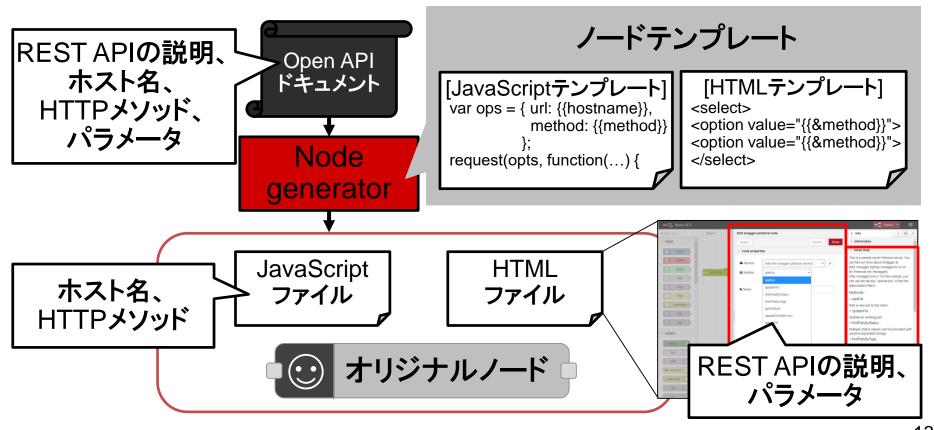


https://github.com/node-red/node-red-nodegen

Node generatorの仕組み(Open APIドキュメントの場合)



- Node generatorは、内部にてREST API固有の情報を除いた 共通のクライアントコードを持つノードテンプレートを保持
- Node generatorは、本ノードテンプレートに
 REST API固有の情報を挿入することでノードを生成



オリジナルノードのディレクトリ、ファイル構成



Node generatorは、以下のディレクトリ、ファイルを出力

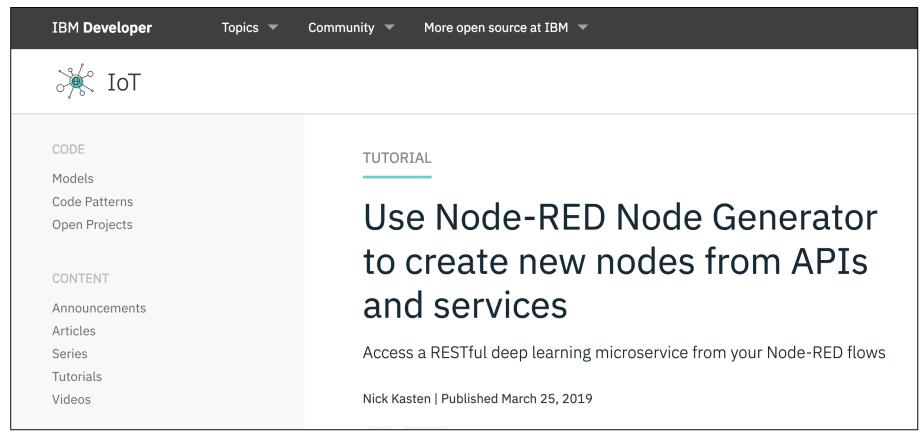


```
node-red-contrib-<ノード名>
├ node.js (サーバ側のNode.jsで動作するプログラム)
├ node.html (ノードの見た目、ノードプロパティUI、情報タブを記述)
⊢ locales
   ├ en-US ─ node.json (ノードプロパティUlの英語メッセージ)
   ├ ja ─ node.json (ノードプロパティUIの日本語メッセージ)
   ├ zh-CN ─ node.json (ノードプロパティUIの中国語メッセージ)
   └ de-DE ─ node.json (ノードプロパティUIのドイツ語メッセージ)
 - icons
  └ icon.png (ノードのアイコンファイル)
 - test
  └ node spec.js (ノードのテストケース)
├ LICENSE (ライセンスファイル)
├ package.json (ノードのパッケージ情報)
└ README.md (ノードの使い方等のドキュメント)
```

Node generatorの活用事例



IBMが画像認識、音声認識、自然言語処理を行うDockerコンテナにアクセスするノードをNode generatorを用いて開発



Node generatorの紹介ページ

https://developer.ibm.com/tutorials/use-node-red-node-generator-to-create-new-nodes-from-apis-and-services/

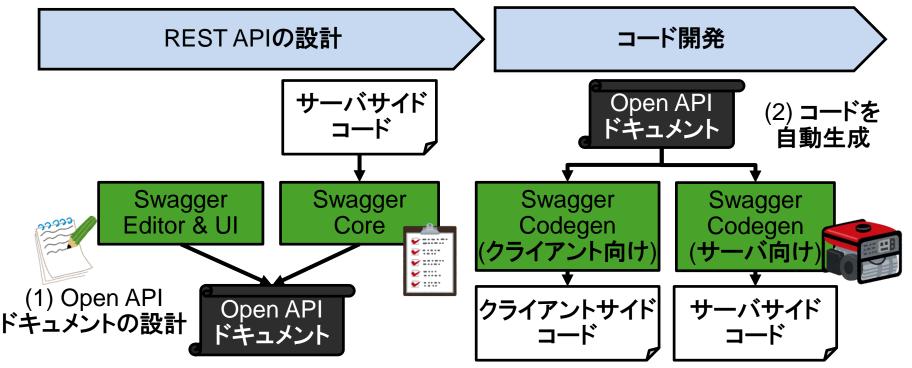


ハンズオン: Open APIドキュメントから オリジナルノードを作成

Open APIとは



- REST API定義を記述する業界標準のフォーマット
- Open APIプロジェクトにより提供されているツール
 - Swagger Editor & UI: Open APIドキュメントを記述するためのエディタ、 REST APIドキュメントの自動生成
 - Swagger Core: サーバサイドのコードからOpen APIドキュメントを自動生成
 - Swagger Codegen: Open APIドキュメントからコードを自動生成



Open APIドキュメント



Open APIドキュメントには、REST APIのアクセス方法についての情報が記載されている。

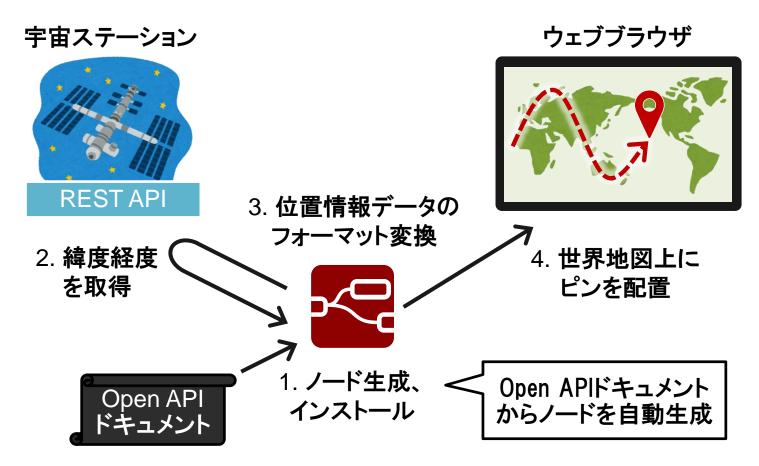
swagger: '2.0' info: REST API description: 'This is a sample server Petstore server.' の説明 version: 1.0.0 title: Swagger Petstore license: name: Apache 2.0 url: 'http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html' ホスト名 host: petstore.swagger.io basePath: /v2 HTTP paths: メソッド /store/inventory get: summary: Returns pet inventories by status description: Returns a map of status codes to quantities operationId getInventory produces - application/json パラメータ parameters responses '200' description successful operation

ハンズオンの内容



宇宙ステーションを位置情報を取得するノードを作成

- (1) 位置情報取得APIのOpen APIドキュメントからノードを自動生成
- (2) 世界地図上に宇宙ステーションの位置を表示するフローを作成





ハンズオンのリポジトリ (https://github.com/kazuhitoyokoi/nodegen-handson)から Open APIドキュメント(swagger.yaml)を ホームディレクトリ(C:\footnote{Users}<ィーザ名>\footnote{\footnote{V}})へダウンロード

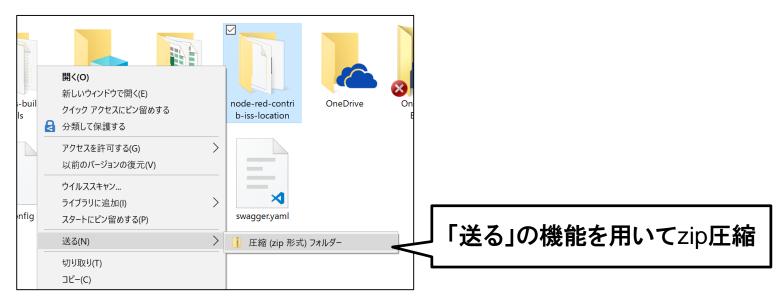
```
swagger: '2.0'
info:
 description: The International Space Station location
 version: 4.5.1
 title: ISS Location
 license:
  name: Apache 2.0
  url: http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html
host: api.open-notify.org
basePath: /
schemes:
 - http
paths:
 /iss-now.json:
  get:
   summary: Current ISS location over Earth (latitude/longitude)
   description: This is a simple API to return the current location of the ISS.
   operationId: ISSLocationNow
   produces:
     - application/json
   responses:
     '200':
      description: successful operation
```

ダウンロードしたOpen APIドキュメントの内容



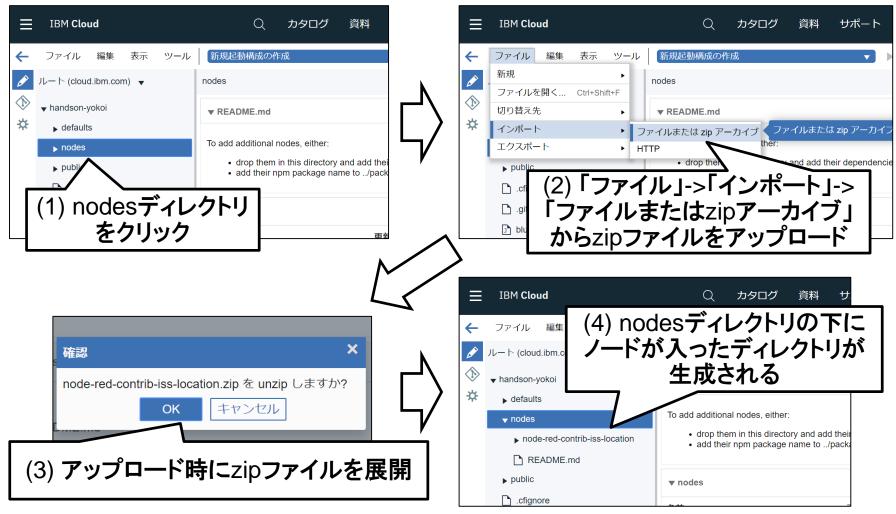
- (1) コマンドプロンプトを開き、ホームディレクトリに移動

 > cd C:¥Users¥<ユーザ名>¥
- (2) node-red-nodegenコマンドを実行しノードを生成
 - > node-red-nodegen swagger.yaml
 - -> ノードを構成するファイル群が入ったディレクトリ node-red-contrib-iss-locationが生成される
- (3) エクスプローラ上で生成されたディレクトリをzip圧縮



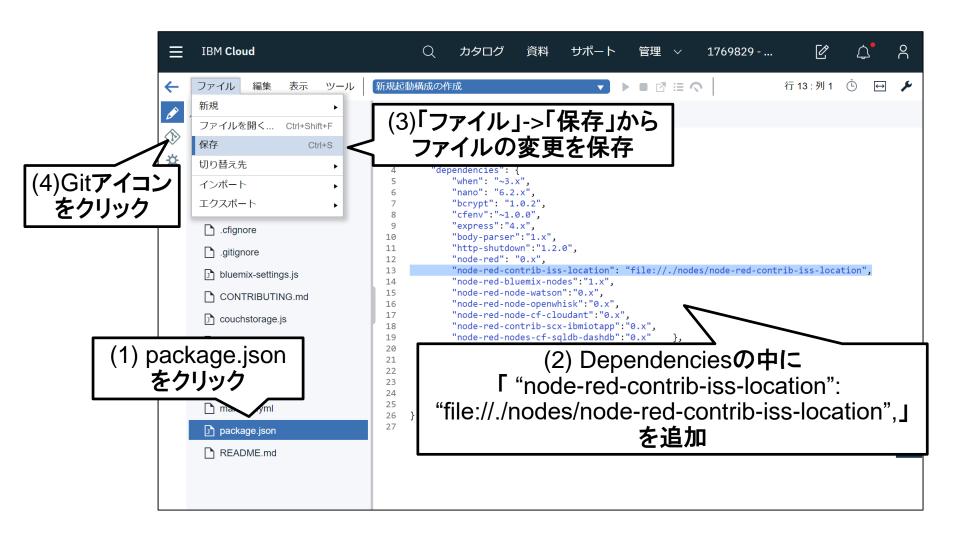


Node-REDのソースコード中のカスタムノードを置くディレクトリnodesに生成したノードが入ったzipファイルをアップロードして展開



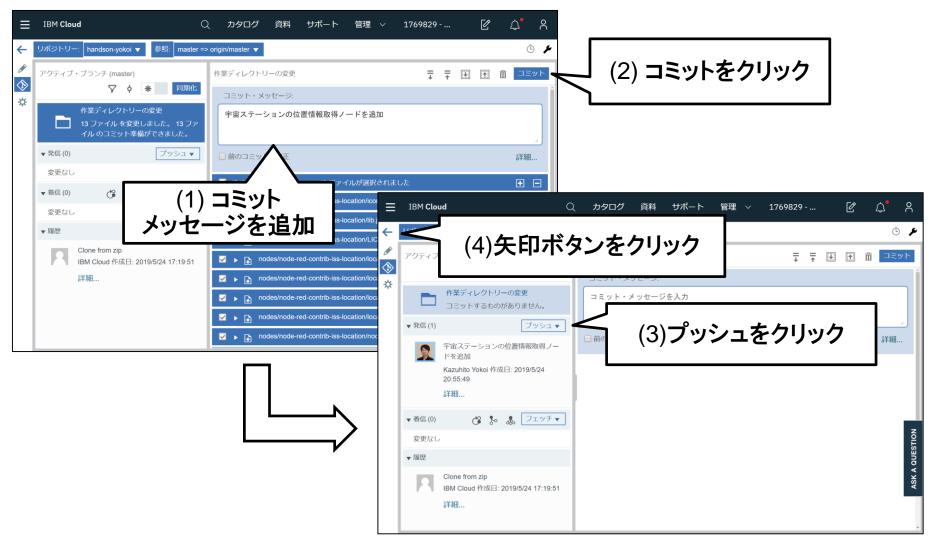


nodes内に追加したオリジナルノードを依存関係として追加



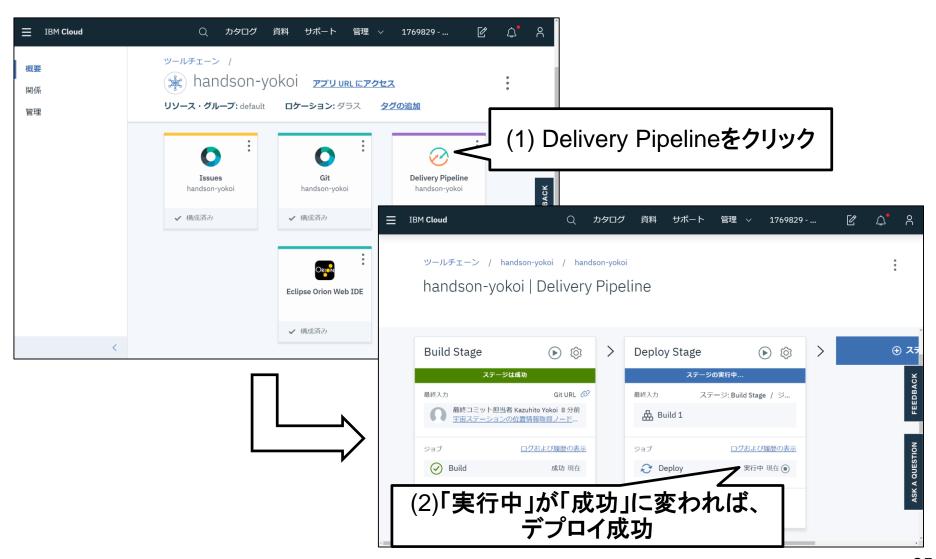


変更内容をGitlab上のソースコードへ反映



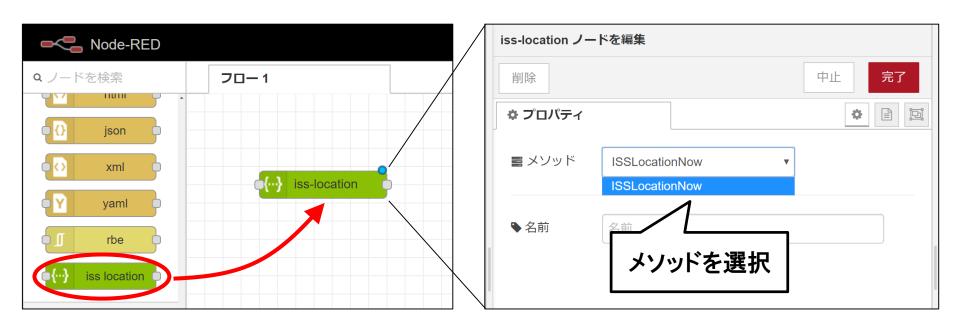


ソースコードのデプロイの状況を確認



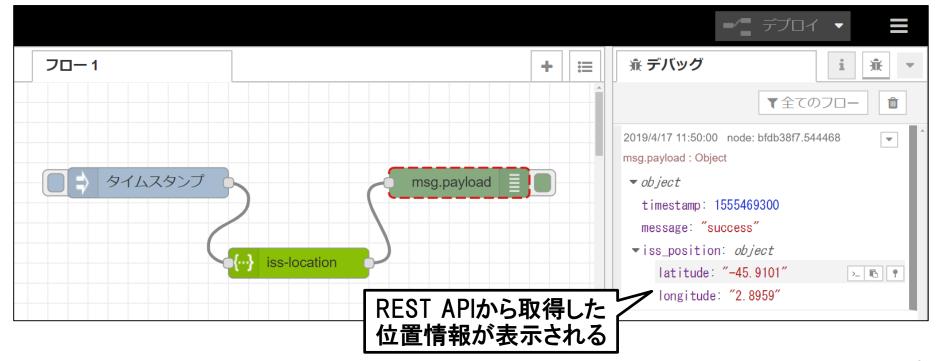


- (1) Node-REDフローエディタをリロード
 - -> パレットの「機能」カテゴリの中にiss locationノードが登場
- (2) 生成されたノードをワークスペースにドラッグアンドドロップし、 ノードプロパティUI上でメソッドを選択





- (3) injectノード、生成したノード、debugノードを順に接続したフローを作成し、デプロイボタンをクリック
- (4) injectノードの右にあるボタンをクリックして、フローを実行
 -> デバッグタブに宇宙ステーションの
 現在の緯度(latitude)、経度(longitude)が出力される





(5) injectノードのプロパティUIで以下の繰り返し処理を設定

#	項目	設定値
1	繰り返し	指定した時間間隔
2	時間間隔	1秒

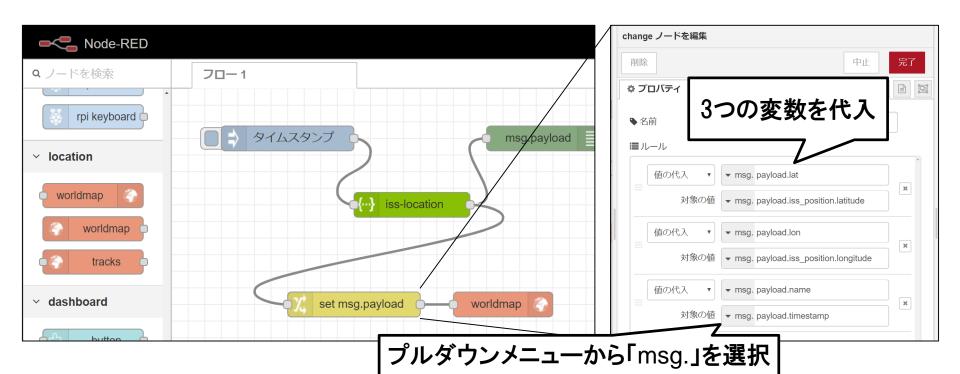


(6) 生成したノードの後ろにchange、world mapノード(左側に端子)を接続



(7) changeノードに変数の代入を設定し、デプロイボタンをクリック

#	プルダウンメニュー	1つ目の設定値	対象の値
1	値の代入	msg.payload.lat	msg.payload.iss_position.latitude
2	値の代入	msg.payload.lon	msg.payload.iss_position.longitude
3	値の代入	msg.payload.name	msg.payload.timestamp





(8) https://<アプリ名>.mybluemix.net/worldmapを開くと、 世界地図が表示され、宇宙ステーションの位置を確認できる



補足: ノードのカテゴリ、色、アイコンを変更



ノードが所属するカテゴリを変更

デフォルトの「機能」カテゴリ以外にノードを所属させる場合に指定する

例)「分析」カテゴリを指定

> node-red-nodegen swagger.yaml --category analysis



ノードの色を変更

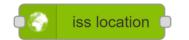
--colorオプションに16進数で色を指定する

例) ノードを白色に設定

> node-red-nodegen swagger.yaml --color FFFFFF



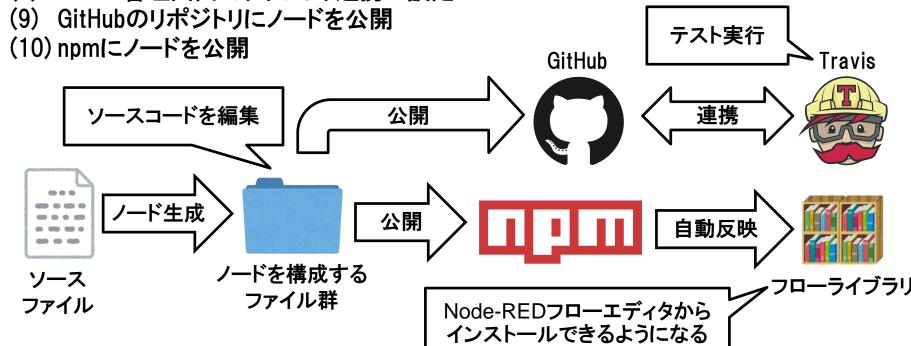
- ノードのアイコンを変更
 - --iconオプションにPNGファイルやNode-RED標準アイコン名を指定する
 - 例) 地球のアイコンを設定
 - > node-red-nodegen swagger.yaml --icon white-globe



補足: フローライブラリにノードを登録する手順



- (1) Node generatorで「--keywords node-red」オプションでキーワードを指定してノード生成
- (2) 情報タブに表示するノードの使い方をHTMLファイル(node.html)に記載
- (3) ノードの概要やインストール方法のドキュメント(README.md)を記載
- (4) ノードプロパティUIの日英メッセージのファイル(locales/<言語>/node.json)を編集
- (5) ノードのテストケース(test/node spec.js)を追加
- (6) Travis設定ファイル(.travis.yml)を追加
- (7) packages.jsonにGitHubリポジトリのURLを追加
- (8) Travis管理画面でリポジトリ連携の設定





最後に





- オリジナルノードを公開し、Node-REDコミュニティを盛り上げましょう
- ノード開発のサポートが必要な場合は、Node-RED公式Slackの #nodegenチャンネルにご質問をお願いします(日本語可)



フローライブラリ (https://flows.nodered.org)



END

Node-REDのノード開発ハンズオン

2019/06/14 日立製作所 中央研究所

横井 一仁

HITACHI Inspire the Next

商標について



- IBMは、International Business Machines Corporationの登録商標です。
- GitHubは、GitHub Incorporatedの登録商標です。
- npmは、npm Incorporatedの登録商標です。
- Slackは、Slack Technologies Inc.の登録商標です。